

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

生徒一人ひとりが明るく、元気のある学校
 「あいさつ」「感謝」「思いやり」そして「挑戦(チャレンジ)」
 (知) 学習の基礎を定着させ、自ら学ぶ力を育てます。
 (徳) ルールやけじめを大切にす美しい心を育てます。
 (体) 生き生きとした毎日を送る健やかな体を育てます。
 (公) 一人ひとりの違いを認め、思いやりの心をもつ生徒を育てます。
 (関) 地域とのつながりを大切に、共に学ぶ姿勢を育てます。

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

課題発見・課題解決力
多様性を認め合う心
思いやりの心
挑戦心

具体化した資質・能力

主体的に取り組む力 他者の思いに寄り添う心
失敗を恐れぬ心

中期取組目標

◎誰にとっても、安全で安心して生活できる学校づくりへの取り組み
 ◎多様な社会を生きていく上で必要な柔軟な対応力と他者を尊重する心を育てる
 ・保護者を子どもの健全な成長のための大切なパートナーとし、学校・保護者・地域・関係諸機関との連携と信頼関係の構築を図る
 ・生徒の自己肯定感を醸成するため、居場所づくりや活躍の場(授業、学校行事、地域行事、部活動等)の充実
 ◎生徒の主体性を育成するための日常的な取り組みの工夫
 ・さまざまな場面で「答えをいそがない」「いそがせない」指導に取り組む
 ・指示待ちの教職員・生徒を創るのではなく「信じて」「任せて」「待つ」ことを大切にする
 ◎協働的で質の高い教職員組織の育成
 ・生徒にとって最大の教育環境は教師であること意識づけと他人事の排除と協働意識の醸成
 ・社会の変化にあった理論と実践に取り組み、改善できることに積極的にチャレンジする

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①校内授業研や小中合同授業研を通し、各教科において生徒が主体的に考え意欲的に学び続ける力を育む。 ②学期末に生徒による授業評価を実施し、集計結果を基にしながら授業改善をおこなう。 ③ICT機器の活用を進め、生徒の興味・関心を高め、生徒のアウトプットを大切に授業に取り組む。
担当	学習指導部

学力向上に関わる本校の状況

横浜市学力・学習状況調査の結果から、次の傾向が見とれる。
 ◎各教科の日々の学習が大切だと考えている生徒がほとんどだが、学習することが好きだと考えている生徒は全体の半数ほどにとどまっている。
 ◎図やグラフなどから情報を読み取り考察したり、情報を整理したりする力が、横浜市の平均と比べると、やや低い。
 ◎国語・数学・英語の各問の正答率は、横浜市の平均とほとんど同じ、または平均を上回っている。

今年度の目標

生徒が、「学習することが楽しい」、「もっと学びたい」と思えるような授業を行えるよう、教員は日々、指導方法の改善と知識・技能の習得に努める。
 生徒の「多くの情報から必要なものを読み取り、まとめ、考察する力」を育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 ○TT(英語、数学、保健体育、美術)を導入し、個に応じたきめ細やかな指導に努めるとともに、授業を見合い、教員間でアドバイスを合して、指導方法の改善に努める。
 ○教科会を週に1度行い、学年を越えて指導方法や評価方法の検討・改善をする。
 ○学習会を行い、日々の授業や家庭での学習に不安を抱える生徒の学習習慣を身につけさせるよう努める。
 ○授業でICT機器を活用するために必要な知識や技能を教員が習得できるよう、指導部や管理部から研修をすすめる。
 下半期
 ○生徒がICT機器を安心して活用できるよう、情報モラル教育を行う。
 ○調べ学習やプレゼンテーションなどで生徒がICT機器を活用する機会をもうけ、情報をまとめる力を育てるよう指導する。
 ○はまっこ読書の活動(学級図書や朝読書など)を通して、さまざまな知見に触れる機会をもうける。
 ○生徒による学校評価アンケートを実施し、結果を基に各教科で授業改善を行う。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
人権教育	①道徳の時間の充実を図り、全ての教育活動を通して、子どもの人格形成の基盤となる資質を育成する。 ②一人ひとりを大切にし、多様性を認め合える人権尊重の精神を基盤とする学校づくりを実践する。 ③人とのつながりを通して自尊感情を高め、他者の思いに寄り添う心情を育むよう取り組む。
担当	道徳・人権教育担当

豊かな心に関わる本校の状況

横浜市学力・学習状況調査の結果から次の傾向が見とれるので、その力を高めさせたい。
 ○将来の夢をもち、諸活動に取り組むことについて、やや前向きさに欠ける。
 ○生徒は比較的「失敗すると、やる気がなくなってしまう」傾向にあるため、それを改善すること。
 ○生徒は比較的「少しの間、考え事をしている、しばらくすると飽きてしまう」傾向にあるため、それを改善すること。
 ○生徒は比較的「終わるまでに何か月もかかるようなことに集中し続けること」を不得意としているので、道徳授業を通して心持の改善をすること。

今年度の目標

発達段階と本校の実情に合わせ、「答えが一つではない道徳的な課題」を一人ひとりの生徒が自分自身の問題と捉えて「考える道徳」「議論する道徳」への転換をはかる。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 ○指導部の係担当がイニシアチブをとり、各学年会において、「ねらい」「課題」を明確に指示を出して週1時間の道徳授業が充実したものになるよう推進をする。
 ○指導部の係担当は、効果的な指導方法についても各学年会において提示するように努める。
 ○「全校道徳」等、昨年度までの良い取り組みを継続させて実施すると共に、新しい取り組みや映像資料の収集を心がける。
 ○職員研修の機会を積極的に設けるようにする。
 ○「考える道徳」「議論する道徳」への転換をはかりながら授業実践をする。
 下半期
 ○「ローテーション道徳」を職員研修の機会と位置づけて、職員同志で積極的に「参観」や「評価」を実践する。
 ○「ユニセフ活動」等、昨年度までの良い取り組みを継続させて実施すると共に、新しい取り組みや映像教材の収集を心がける。
 ○指導部の係担当は、「道徳」の授業を教科書を活用しての授業にとどめず、視聴覚教材等の開発に取り組む。
 ○人権週間にあわせて、「人権」に関わる学びを実施する。
 ○道徳的な課題を生徒が自分自身の問題と捉えられる助言、支援に努める。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育・食育	①運動やスポーツに対する関心を高め、生涯にわたって運動やスポーツを「する、みる、支える、知る」の多様なかかわり方で楽しむ態度を育む。 ②食生活の大切さを理解し、望ましい生活習慣を身につけ心身の健康を保持増進しようとする態度を育む。
担当	保健安全指導部、保体科

健やかな体に関わる本校の状況

横浜市学力・学習状況調査の結果から、次の傾向が見とれる。
 ○授業、部活動や学校内外の活動等で、生徒が運動に親しみ、積極的に活動する姿が見られる。
 ○感染症予防の基本的な取り組みについて、自分の健康増進を意識して行動している。
 ○運動が好きな生徒のうちの約7割が中学校卒業後も自主的にスポーツに関わりたいと思っている一方で、運動が苦手な生徒の理由は中学校入学以前からの苦手意識が大きく影響している。

今年度の目標

基本的な生活習慣の定着と健康安全についての理解を深め、自らの健康管理について関心を持って生活できる生徒を育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 ○授業や体育的行事、部活動等に積極的に参加することで、運動やスポーツへの関心を高め、運動を楽しむ態度を育てる。
 ○毎日の食生活から、成長期に必要な栄養バランスを知り、旬の食材や「食」で季節を感じることを意識するよう、食育に取り組む。
 ○保健体育の学習を通して、体力づくりのための補強運動を年間継続して行い、生徒の体力の維持・向上に努める。
 ○保健体育の学習において、技術を高めるだけでなく仲間を援助する活動を積極的に取り入れ、生涯にわたるスポーツと関わる資質・能力の育成に努める。
 下半期
 ○体力向上に向け、学校生活のいろいろな場面で、運動やスポーツへの関心を高め、運動を楽しむ態度を育てる。
 ○自分の体調管理と食生活の関連性を知り、主体的に健康で安全な生活を送れるように、計画的に健康安全教育を実践する。
 ○授業や部活動、保健指導などを通して、運動と健康が密接につながっていることを指導し、自らの生活に自主的に運動を取り入れ、健康に生活する資質・能力を養う。